

令和元年度 講演会開催結果（概要）

全国開拓振興協会は11月12日、岩手県盛岡市繋の「ホテル大観」で「日本の“農”講演会2019 in 岩手」を開催した。開拓者・農業者の営農の維持・発展を図るため、会員の所在する都道府県で開催するもので、今年で9回目。岩手県、盛岡市、岩手県開拓振興協会、岩手花平農協など8関係機関・団体の後援を得た。

県内の開拓者・農業者をはじめ、行政機関、農業関係団体、消費者、県外からの開拓関係者など123名が参加。今年は2部構成で、東京大学大学院・鈴木宣弘教授と同県岩泉町の岩泉ホールディングス(株)・山下欽也代表取締役社長の講演に、参加者は熱心に聞き入った。



冒頭、全国開拓振興協会・西谷悟郎会長が主催者挨拶、岩手県開拓振興協会・野原修一理事長が開催県代表挨拶を行い、講演に移った。

鈴木教授の演題は「みんなで守る食・農・暮らしの未来」。はじめに「貿易自由化の現在地を確認したい」として、協定の合意内容を批判。米国抜きのTPP11が昨年12月に発効したが、TPP12の内容を11カ国にそのまま譲歩してしまった。やらないと言っていた日米FTA（自由貿易協定）交渉を始め、今年9月に最終合意。即座に「TPP超え」となった。2月に発効した日欧EPAでは、チーズなどでTPP以上を譲った。この3つを合わせれば、大問題になったTPP12以上に事態が悪化しており、「もっと議論や対策を

しなければならないのが今の状況」と指摘した。

米国への牛肉輸出の低関税枠は現在200トしか認められていない。日米FTAで成果が得られたというのはウソで、TPP12では低関税枠を拡大しつつ、枠も枠外関税も15年目に撤廃する約束だったことを政府は隠している。実質的には少しの枠の拡大にとどまる。また、米国からの牛肉輸入のセーフガードが発動されたら、それに合わせて枠を増やして発動されないようにしていく約束もしていることが付随的な文書(サイドレター)で分かった。これでは、牛肉輸入を低関税でいくらかでも受け入れていくことになる。



国内農業生産は減少傾向をたどっている。そこに貿易自由化が加わると、30年の生乳生産量は400万ト弱で、「総飲用化」になる可能性がある。35年の自給率は28%に、牛肉と豚肉は10%台になるかもしれない。

食品添加物や農薬を含め、食の安全基準緩和が一層迫られる。BSE（牛海綿状脳症）に対応した米国産牛肉の月齢制限が、日米交渉の最中の5月に撤廃された。次は防カビ剤などの収穫後農薬の表示。食品添加物に分類されているが、日米FTAで表示そのものの撤廃が待ち受けている。

「今の輸入農産物がいかに危ないのか、情報を共有化しなければいけない」。成長ホルモンのエストロゲンやrBSTの投与、成長促進剤のラクトパミンの飼料添加、GM（遺伝子組み換え）作

物、除草剤の残留など、健康リスクが高い。

安全・安心な農産物をつくってきた生産者を、みんなで支えていかないと自分たちの命がもたない。自給率が低下したら、国産を選ぶことさえできなくなる。今はもう、その瀬戸際まで来ている。

鈴木教授は、酪農の重要性や食料安全保障の必要性、種子法廃止の問題点などについても力説。結びに、「生産者のみなさんも自分たちが国民の命を守ってきたことに誇りと自覚をもち、そのことをもっと明確に伝え、消費者とのネットワークを強化してほしい」と呼びかけた。

次に、山下氏が「価格や量とは別次元で未来をつくる～度重なる苦境をのりこえて」と題して講演。スライドを用いて、2つの大きな苦境を克服したことを話した。



04年、農協を48歳で早期退職し、地元の(旧)岩泉乳業(株)に入社。だが、同社(04年設立、06年操業開始)の経営は、牛乳の消費低迷や価格競争の激化などで悪化し、累積赤字がかさんだ。

52歳で代表取締役社長に就任した山下氏は、主力商品を牛乳から「はっ酵乳」に販売戦略を転換。ホテルや病院などの新しい市場に活路を求めた。同社の生き残りをかけ、中小企業だからできるヨーグルトとして、市場で希少な「低温長時間はっ酵」に挑戦。商品を知ってもらおうと、町内を皮切りに県内外の消費者との交流を深めるとともに、メディアをフル活用した情報発信を行った。

手間をかけた商品づくりと積極的な宣伝活動でブランド化に成功。売上高を大きく伸ばし、累積赤字を解消した。

16年8月、台風10号が岩泉町を直撃。同社の工場も壊滅的な被害を受け、操業停止となった。社員の継続雇用を守り、工場の早期再開をめざした。県内はもちろん、全国の同社ヨーグルトファンの応援が励みとなった。約1年後に新工場が落成し、製造再開。今年3月、関連2社と統合して、新たな一歩を踏み出した。

町内の酪農家とのつながりを大切にしている。酪農振興のため、費用を補助していることも紹介。結びに、「私たちも酪農家も再生産できる価格で販売することが大事」として、「それには、商品と価格を認知してもらう努力を惜しまない」と語った。

続いて、岩泉乳業を特集したテレビ番組(17年11月、全国放映)の録画を視聴した。山下氏と社員の強い思い、そして応援の声が台風被害からの復活につながったことが参加者に伝わった。

最後に、岩手花平農協・坪幸一代表理事組合長が挨拶を行い、閉会した。

講演会は、開拓関係者や農業者の方だけでなく、県内在住・勤務されている方々など、123名が参加し、熱心に両先生のお話に聞き入っていた。

各講演終了後には参加者より質問や意見が相次ぎ、大盛況のうちに終了することができた。